

川越市観光アンケート調査

報告書

平成28年

【平成28年1月～平成28年12月】



川越市マスコットキャラクター

ときも

平成29年3月

川越市

目 次

1. 平成28年川越市入込観光客数の概要	2
2. 観光アンケート調査の統計・分析	3
2-1. 観光アンケート調査の趣旨	3
2-2. 観光アンケート調査の方法	4
2-3. 観光アンケート調査の結果	6
2-3-1. 出発地	6
2-3-2. 性別	12
2-3-3. 年齢	12
2-3-4. 同行者	13
2-3-5. 交通手段	14
2-3-6. 滞在期間	15
2-3-7. 宿泊観光客	15
2-3-8. 観光時間	16
2-3-9. 訪れた時刻、帰る時刻	18
2-3-10. 来訪回数	19
2-3-11. 認知方法	20
2-3-12. 立ち寄り観光地	21
2-3-13. 交通費	23
2-3-14. 宿泊費	23
2-3-15. 飲食費	24
2-3-16. 入館料・入場料	25
2-3-17. お土産購入費	25
2-3-18. 要望	26
2-3-19. 意見・感想	27
3. 観光消費額	28

1. 平成28年川越市入込観光客数の概要

平成28年に川越を訪れた観光客数は704万人だった（外国人観光客含む）。前年に比べ39万5千人の増加（5.9%増）となった。

要因として、訪日外国人観光客数が大幅に増加したことがそのひとつと考えられる。また、観光施設（旧山崎家別邸）の新設や「川越氷川神社縁むすび風鈴」による集客、さらには、「川越氷川祭の山車行事」がユネスコ無形文化遺産に登録されたことにより世界の注目を集めたことが大きな要因と考えられる。12月は、当該登録を祝して、本市の所管施設6か所が無料入館となり、各施設の入館者数が大幅に増加した。その他、首都圏中央連絡自動車道（圏央道）の県内全線開通や鉄道5社による直通最速電車「Fライナー」の運行開始等により、交通の利便性が向上したことも観光客の増加につながったのではないかと推測される。

公設公営の施設（市の施設）については、川越まつり会館と川越城本丸御殿において入館者数が増加したが、市立博物館、市立美術館、蔵造り資料館は減少する結果となった。川越まつり会館は115,373人で、17,780人増（前年比で18.2%増）であった。川越まつり会館の12月の入館者数は、無料開館の効果もあり、月別で過去最多を記録することとなった（12月：24,026人）。入館者数が減少した市立博物館、市立美術館、蔵造り資料館においては、市立博物館は1.4%減、市立美術館は10.1%減であり、最も減少率が高かったのは蔵造り資料館であった。蔵造り資料館は、68,566人で、前年度比13.5%減となった。これは10月18日より耐震化工事により閉館したことが要因と考えられる。

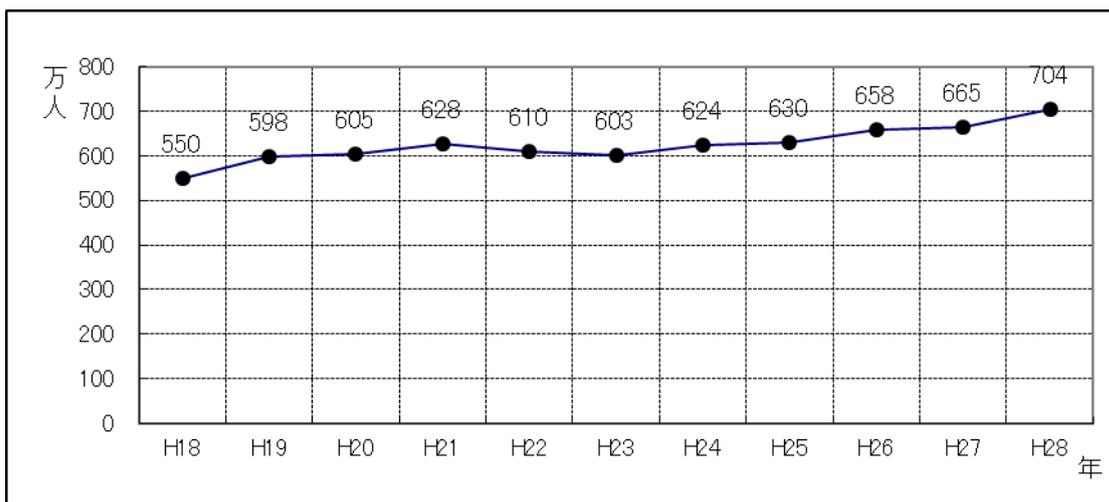
各種行事については、小江戸川越春まつりオープニングイベントでは、3万人と前年よりも1千人減（前年比で3.2%減）であったが、小江戸川越春まつりフィナーレイベントは、3日間連日好天となり、3日間で17万人と、前年比で1万9千人増（前年比で12.6%増）であった。川越百万灯夏まつりは16万5千人で、前年と同数であった。小江戸川越花火大会は、翌日に順延しての開催となった。昨年に引き続き天候に恵まれず、雨天により順延した翌日も実施が危ぶまれる状況であり、来場者数は8万人で昨年と比べて1万人の減少（前年度比11.1%減）であった。

川越市最大の伝統行事「川越まつり」は、平成27年は92万9千人であったが、平成28年は98万5千人と前年比で5万6千人増加した。これは、例年よりも参加山車が多かったこと（平成27年：13台、平成28年：23台）や天候に恵まれたことが大きな要因と考えられる。

かわごえ産業フェスタは、今年初めてウエスタ川越での開催となり、来場者数は2万4千7百人であった。昨年は悪天候の影響もあり、1万4千人と落ち込んだが、前年度比で75.2%増と、大幅に増加する結果となった。晴天に恵まれた一昨年度の産業フェスタと比較しても、1,000人増となり、アクセスの良さが増加につながったと考えられる。

※川越市入込観光客数は暦年で調査を実施。

(表1) 過去10年間の川越市入込観光客数



平成28年の外国人入込観光客数は、171,000人と、平成27年に比べ、52,000人増加し、43.7%の増加となった。

主な要因としては、クルーズ船の寄港増加、航空路線の拡大、これまでの継続的な訪日旅行プロモーションによる訪日旅行需要の拡大である。その他、ビザ(査証)の発給条件の緩和や消費税免税制度の拡大等があったことから、2016年の訪日外客数が増加した。このように、日本全体の訪日外客数の増加に伴って、川越市の外国人観光客数も増加したと推測される。

そのほか、観光課で実施した、無料Wi-Fi整備や川越まつりのパンフレット及びホームページの多言語化、本川越駅観光案内所のカテゴリ2認定※(川越駅観光案内所は既にカテゴリ2)、ツーリズムEXPOジャパンやビジットジャパントラベルマートへの出展参加など、数々のインバウンド事業の成果が表れていると推測される。

※日本政府観光局による外国人対応可能な観光案内所の認定制度。常時英語対応可能、広域的な観光案内ができる等がカテゴリ2の基準である。

2. 観光アンケート調査の統計・分析

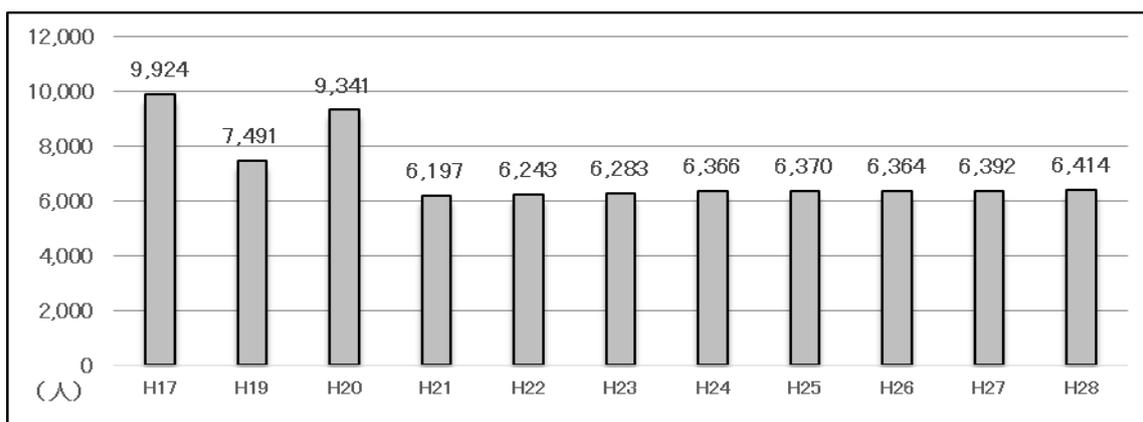
2-1 観光アンケート調査の趣旨

観光アンケート調査は、観光客一人一人に対する聞き取りによるもので、その結果を基に、観光客の出発地、交通手段、立ち寄り観光地、観光消費額など、観光客の基本的な動向を把握することを目的としている。

当調査は、平成17年から実施している。(図1参照 ※平成18年は未実施)平成28年度も同様の調査を行うことによって、経年の変化を把握するとともに、観光客の特性を分析することによって今後の観光振興策の重要な資料とする。

なお、平成27年度までは4月～翌年3月の年度集計で行っていたが、平成28年度より、川越市入込観光客数と連動した観光客の動向を把握するため、1月～12月でまとめ報告することとする。

(図1) 年毎のアンケート調査の標本数



※実施期間は、平成17年及び平成19年については、1月～12月に実施。
平成20年以降は4月～翌年3月に実施。平成28年以降は、1月～12月で報告書をまとめることとする。

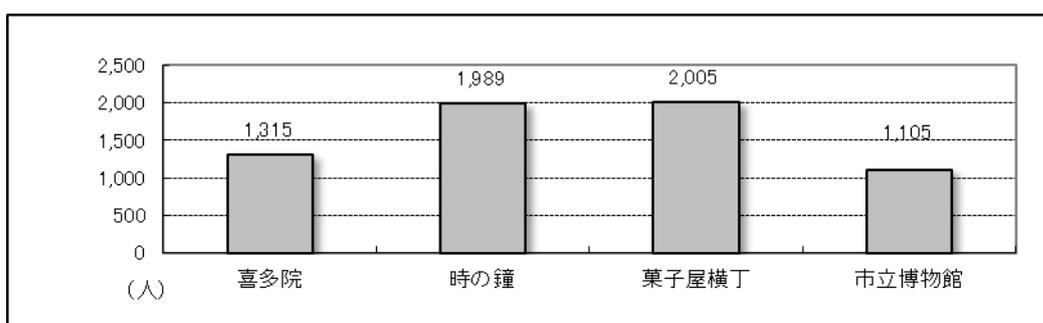
2-2 観光アンケート調査の方法

平成28年1月から12月までの1年間を調査期間とし、主要観光地点4ヶ所において、各地点を訪れる観光客に対し、聞き取りによる計6,414件の観光アンケート調査を実施した。

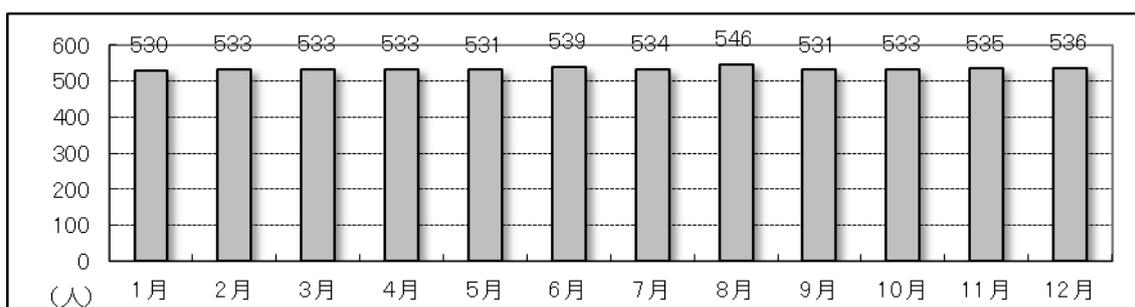
アンケート調査地点および各地点の聞き取り件数は(図2)のとおりである。いずれの地点も午前11時から午後3時までの4時間で調査を実施している。

また、(図3)のとおり、6,414件のアンケート調査に偏りが出ないように、月毎に調査を実施している。

(図2) 観光アンケート調査地点と聞き取り件数



(図3) 各月の観光アンケート調査数



※なお、回答結果については、百分率(%)で表示しているものもあるが、小数点第2位で四捨五入しているため、その数値の合計は100%を前後する場合がある。

2-3 観光アンケート調査の結果

2-3-1 出発地

アンケート回答者総数 6,414 人のうち、国内が出発地の観光客は 6,092 人、国外が
出発地の観光客は 319 人だった。（3 人は不明）

以下、出発地の分析を国内と国外とに分けておこなう。

(1) 国内

①都道府県別

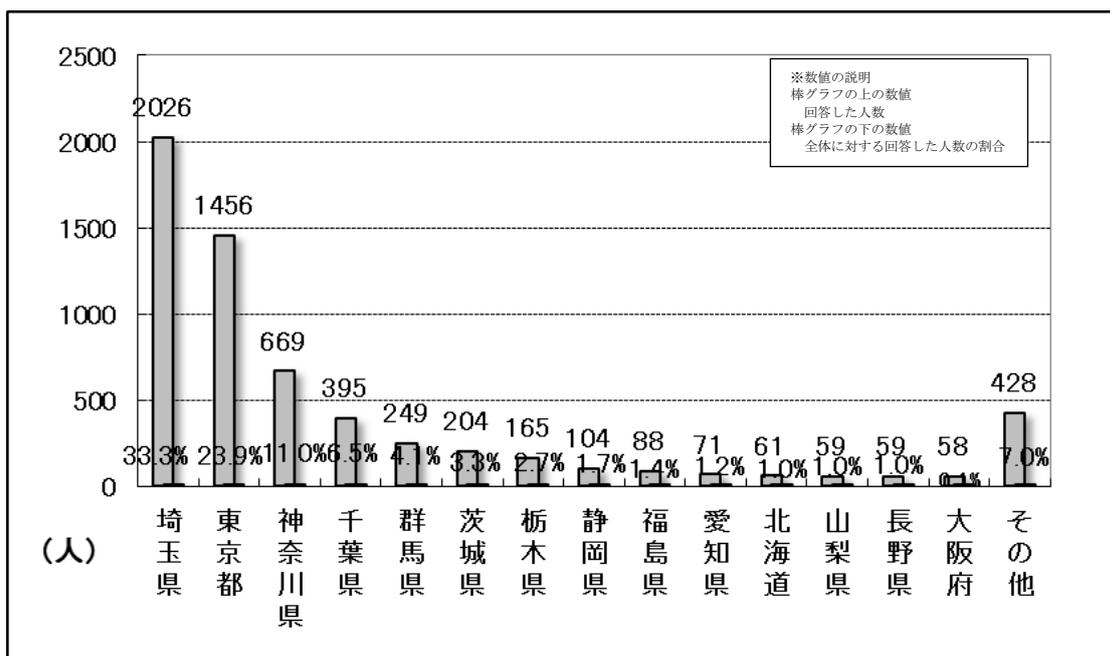
川越を訪れた観光客の 85%以上が関東地方の各都県から出発していた（図 4）。特
に、県内市町村および東京都を出発地とする観光客の割合が 57.2%（平成 27 年度：
55.9%）であり、全体の半数以上を占める結果となった。これは、都心から 1 時間以
内で訪れることのできる立地特性が要因となっているものと考えられる。

また、県内市町村および東京都以外を出発地とする観光客の割合は 42.8%であり、
前年度より 1.3 ポイント減少と、前年度と比べて微減する結果となった。

関東地方の各都県以外では、静岡県（104 人、1.7%）、福島県（88 人、1.4%）、愛
知県（71 人、1.2%）から出発した観光客が上位の結果となった。静岡県と福島県は前
年度に引き続き上位であった。全国の各都道府県別出発地は表 2 のとおりである。

なお、昨年度と比較して、東北方面からの割合が増加する結果となったが、これは
平成 27 年 10 月に首都圏中央連絡自動車道（圏央道）が県内全線開通したことにより、
東北方面からのアクセスが良くなったことが要因のひとつと考えられる。

（図 4） 出発地



(表2) 都道府県別出発地

地方	件数	都道府県別（上位順に表記）※カッコ内は人数
関東	5, 223人	埼玉県(2,026), 東京都(1,456), 神奈川県(669), 千葉県(395), 群馬県(249), 茨城県(204), 栃木県(165), 山梨県(59)
東海	196人	静岡県(104), 愛知県(71), 岐阜県(13), 三重県(8)
東北	209人	福島県(88), 宮城県(51), 山形県(23), 岩手県(20), 秋田県(13), 青森県(14)
北陸・信越	131人	長野県(59), 新潟県(47), 石川県(10), 富山県(11), 福井県(4)
近畿	111人	大阪府(58), 兵庫県(28), 奈良県(11), 京都府(9), 和歌山県(4), 滋賀県(1)
九州・沖縄	90人	福岡県(38), 沖縄県(8), 熊本県(11), 長崎県(7), 鹿児島県(11), 宮崎県(5), 大分県(6), 佐賀県(4)
北海道	61人	北海道(61)
中国	56人	広島県(21), 岡山県(16), 山口県(11), 島根県(6), 鳥取県(2)
四国	15人	愛媛県(6), 高知県(5), 香川県(4), 徳島県(0),
	6, 092人	

※各都道府県の地方区分は、郵便事業株式会社発行の郵便番号簿の地方区分に従った。

②市区町村別（埼玉県、東京都、神奈川県）

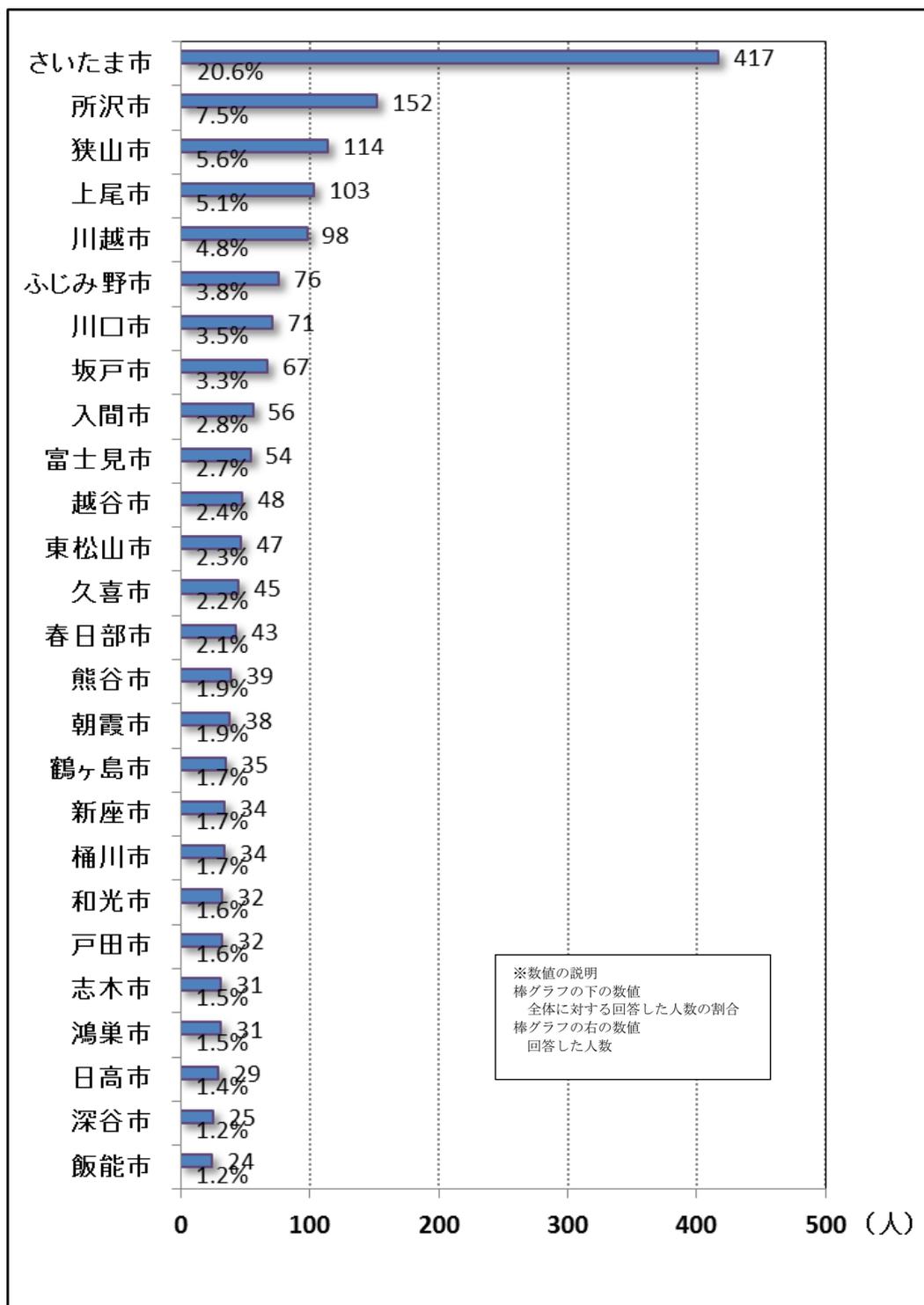
上位3位を占めた埼玉県、東京都、神奈川県の観光客について、市区町村別出発地は、図5（埼玉県）、図6（東京都）、図7（神奈川県）のとおりとなった。

(ア) 埼玉県

埼玉県内の出発地で最も多かったのはさいたま市であり、全体の20.6%を占め、前年よりも1.3ポイント増加した。（平成27年度：19.3%）距離の近さ、人口の多さ（1,281,171人、平成28年12月1日現在）、および、JR川越線、国道16号などによる交通アクセスの利便性の良さなどが最上位になった要因と考えられる。埼玉県内の出発地データは、平成19年度以降（平成20年度についてはデータなし）、毎年度さいたま市が1位を占めており、今年度も引き続き2位を大きく上回り1位となった。

その次に多かったのは、所沢市の7.5%であった。続いて第3位は狭山市（5.6%）、第4位は上尾市（5.1%）、第5位は川越市（4.8%）という結果だった。上位の5市は、昨年度と比較して、上尾市と川越市の順位が入れ替わるのみで、同じ5市がランクインした。

(図5) 埼玉県の市町村別出発地



(イ) 東京都

東京都内の出発地で最も多かったのは練馬区であり、全体の 10.3%を占めた。練馬区が第 1 位となった要因としては、人口の多さ（723,727 人、平成 28 年 12 月 1 日現在）や、西武新宿線、東武東上線、川越街道（国道 254 号）、関越自動車道（練馬 IC～川越 IC）など交通の利便性が高いことが考えられる。

第 2 位は板橋区の 6.9%で、続いて第 3 位は世田谷区（5.2%）、第 4 位は八王子市（5.1%）、第 5 位は杉並区（3.8%）という結果だった。

(図 6) 東京都の市区町村別出発地

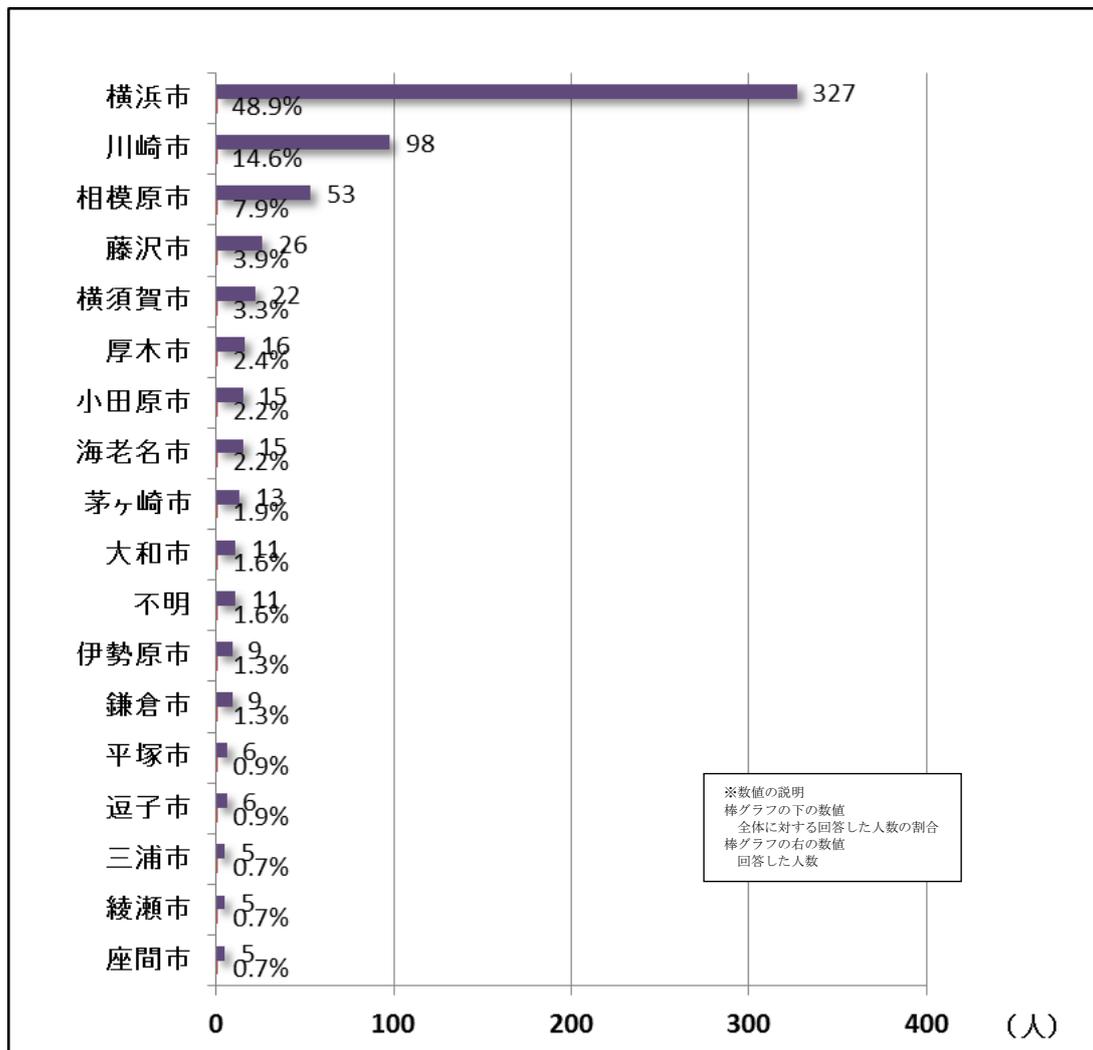


(ウ) 神奈川県

神奈川県内の出発地で最も多かったのは横浜市であり、全体の48.9%(平成27年度：49.5%)を占めた。横浜市が第1位となった要因としては、人口の多さ(3,732,092人、平成28年12月1日現在)や、鉄道5社相互直通運転が平成25年3月16日に開始したこと、さらに平成28年3月26日には相互直通運転区間を運転する最速電車「Fライナー」が誕生し、交通の利便性が増したことが要因のひとつと考えられる。

第2位は川崎市の14.6%で、続いて第3位は相模原市(7.9%)という結果であった。神奈川県内の出発地データは、平成25年度以降集計を開始したが、上位3市の順位は4年連続同様の結果となった。

(図7) 神奈川県の市町村別出発地



(2) 国外

国外から出発した観光客は 319 人、割合としては 5.0%であった。平成 24 年度以降、4 年連続増加する結果となった。(平成 24 年度 1.8%、平成 25 年度 3.1%、平成 26 年度 3.2%、平成 27 年度 3.8%)

国別では台湾 (121 人)、香港 (28 人)、中国 (26 人)、アメリカ合衆国 (24 人)、タイ (23 人)、韓国 (22 人)、オーストラリア (9 人) が上位となった。上位 5 か国のうち 4 か国がアジアの出発地という結果であった。(表 3)

なお、川越市内の各観光案内所 (川越駅観光案内所、本川越駅観光案内所、仲町観光案内所) の統計によると、平成 28 年度の外国人観光客利用者数の上位国は、国別では 1 位が台湾、2 位が中国 (香港含む)、3 位がタイ、4 位が韓国、5 位が米国、6 位がシンガポール、7 位がマレーシア、8 位が豪州、9 位がフランス、10 位がスペインであった。上位 3 か国は平成 27 年と同様の結果となった。

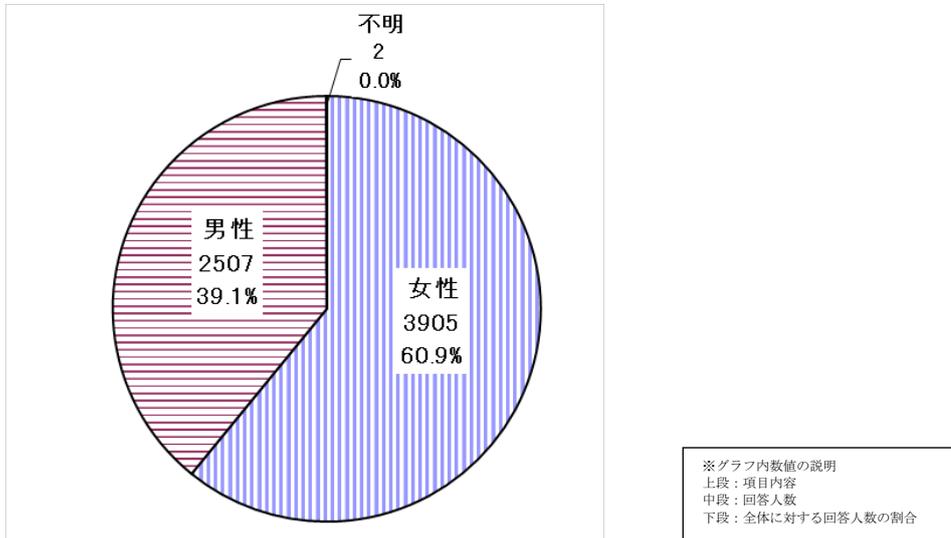
(表 3) 国別出発地

国名	回答者数
台湾	121人
香港	28人
中国	26人
アメリカ合衆国	24人
タイ	23人
韓国	22人
オーストラリア	9人
カナダ、ドイツ	各8人
シンガポール、スペイン	各7人
イギリス	5人
マレーシア	4人
インドネシア、ブラジル、フランス、ベトナム、ロシア	各3人
ウクライナ、グアム、コロンビア、スイス、スウェーデン、タジキスタン チェルノブイリ、ニュージーランド、ネパール、ハンガリー、バングラディッシュ、 フィリピン	各1人
計	319人

2-3-2 性別

性別は、平成 27 年度の調査同様、女性が男性を上回っており、女性が 60.9%、男性が 39.1%という結果となった。(図 8)

(図 8) 性別



2-3-3 年齢

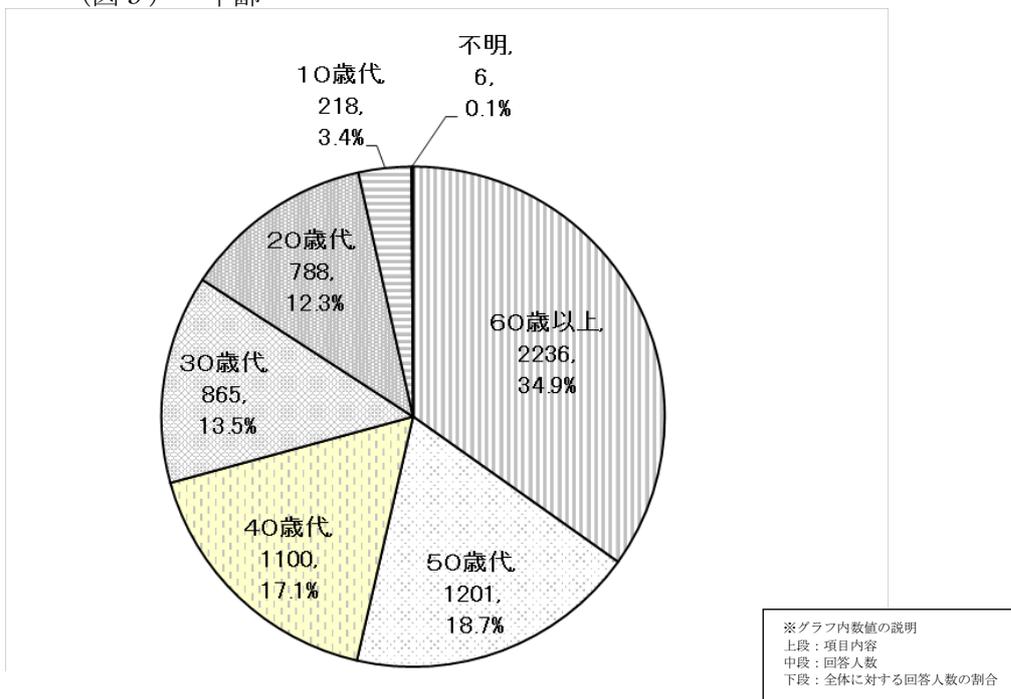
年齢の上昇に比例して、観光客割合も上昇した。(図 9)

50 歳代以上の中高年層が 53.6%という結果となり、半数以上を占めた。平成 25 年度以降、50 歳代以上の割合は減少する結果となっており、中高年層の割合は近年減少傾向にあると推測される。

(50 歳以上の割合：平成 25 年度 62.1%、平成 26 年度 59.1%、平成 27 年度 56.0%)

(10~20 歳代の割合：平成 25 年度 12.6%、平成 26 年度 12.5%、平成 27 年度 15.0%)

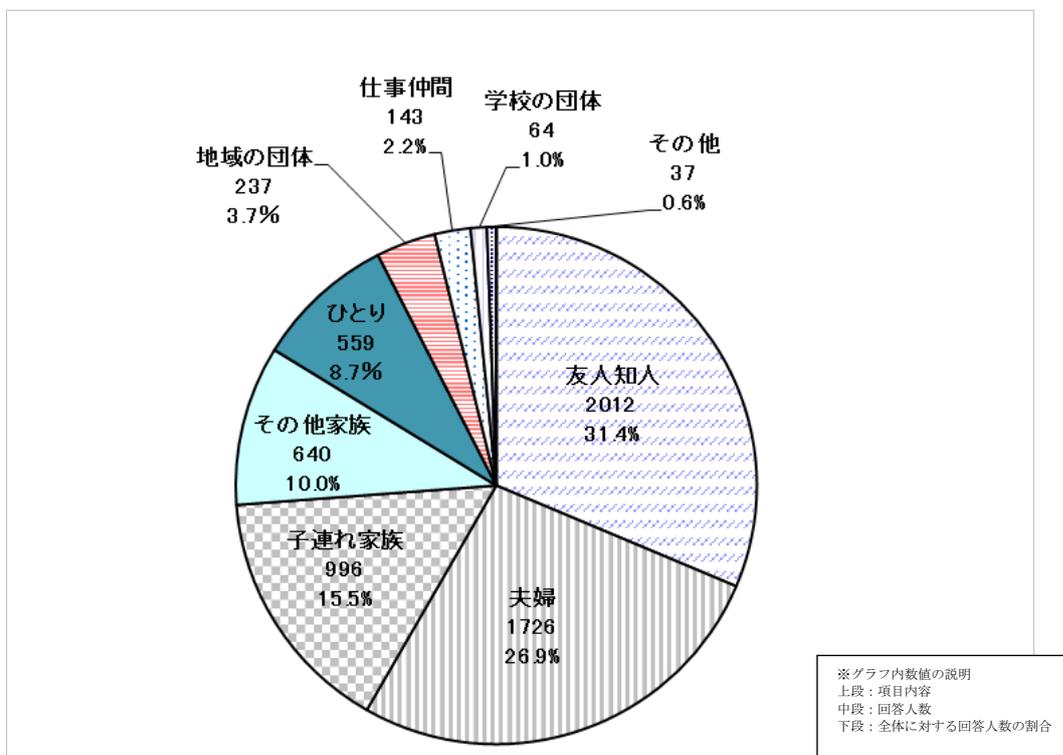
(図 9) 年齢



2-3-4 同行者

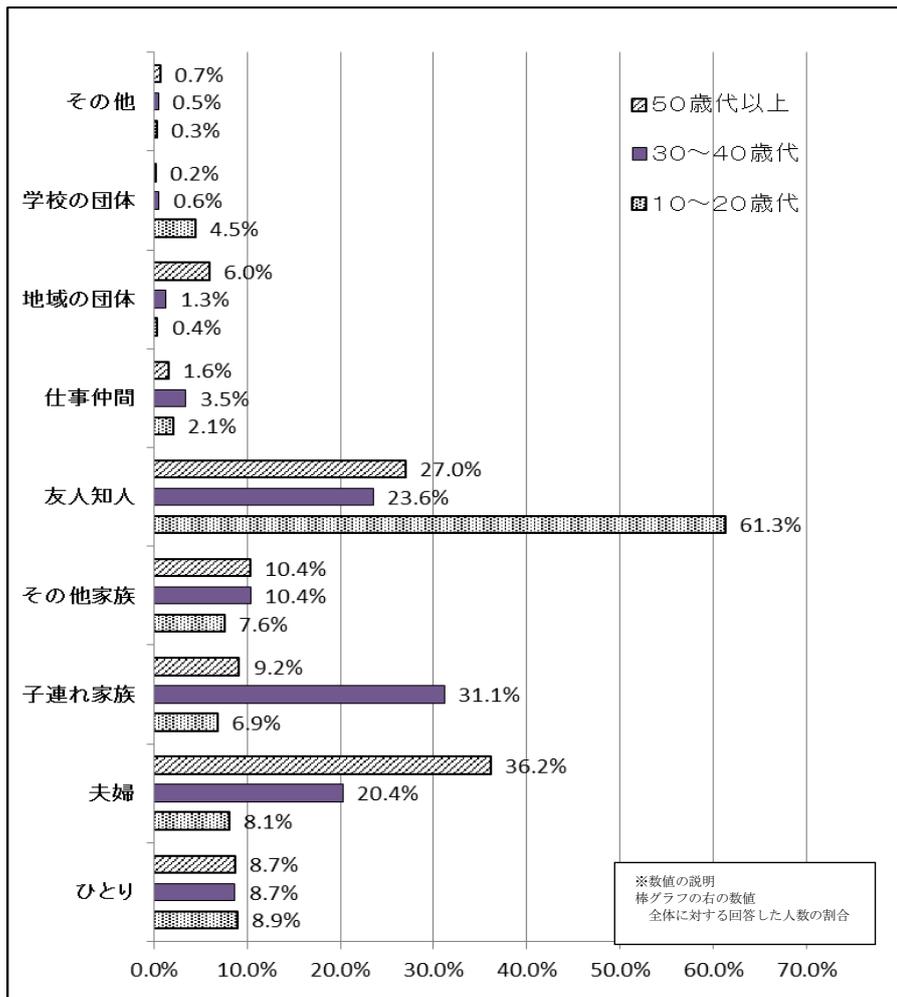
友人知人で川越を訪れる観光客が最も多かった。(31.4%) 夫婦(26.9%)、子連れ家族(15.5%)やその他家族(10.0%)を含めると、家族で川越を訪れる観光客は52.4%と前年と同様に半数以上を占める結果となった。(図10)

(図10) 同行者



また、世代別(10~20歳代、30~40歳代、50歳代以上)の同行者を調べたところ、10~20歳代では友人知人(61.3%)の割合が最も多く、30~40歳代では子連れ家族(31.1%)の割合が最も多かった。50歳代以上では夫婦(36.2%)の割合が最も多かった。(図11)

(図 1 1) 世代別同行者

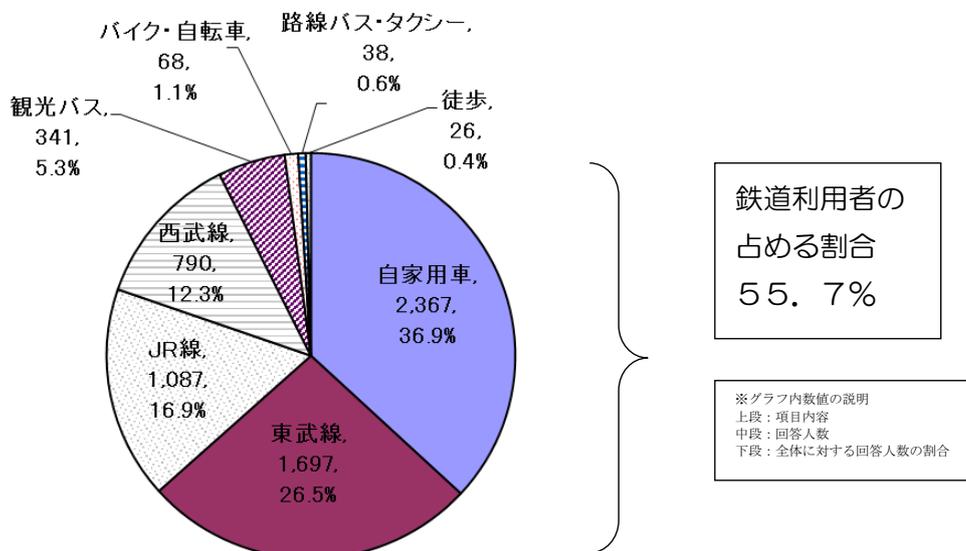


2-3-5 交通手段

川越に乗り入れている鉄道 3 社の利用客率を合計すると約半数 (55.7%) になり、平成 27 年度の利用客率 (55.5%) より 0.2 ポイント増加した。

また、自家用車の利用客率 (36.9%) は前年に比べて 1.1 ポイント増加した。(平成 27 年度は 35.8%) (図 12)

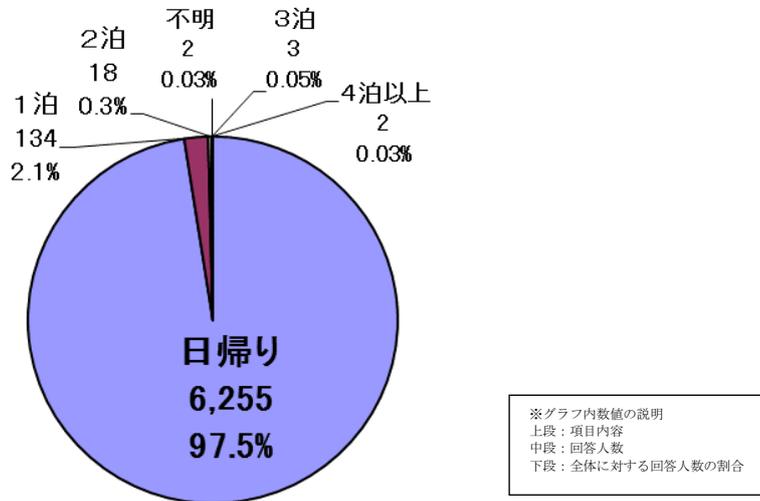
(図 1 2) 交通手段



2-3-6 滞在期間

川越市内の滞在期間は日帰りが97.5%と、大半を占めた。平成27年度（日帰り97.2%）より0.3ポイント増加する結果となった。（図13）

（図13） 滞在期間



2-3-7 宿泊観光客

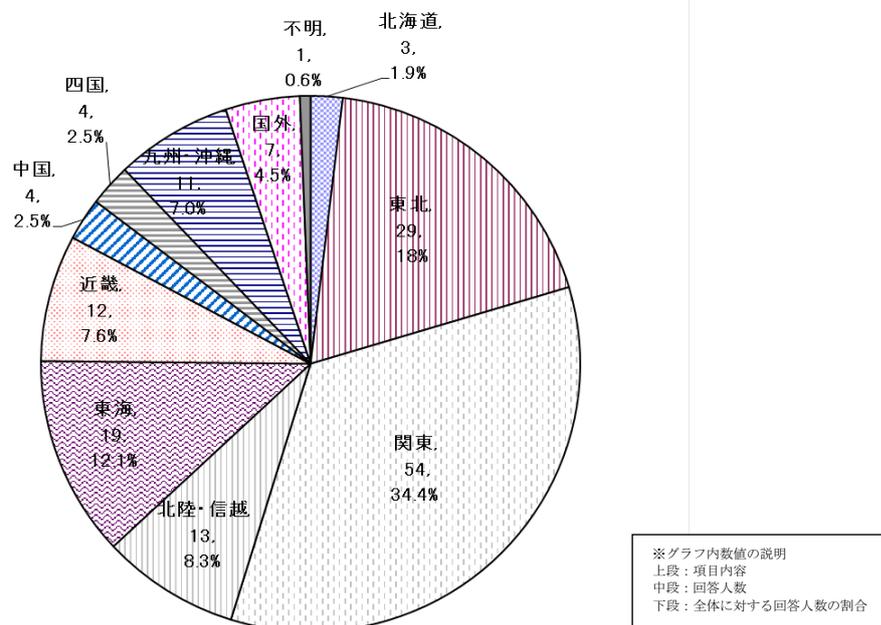
川越市内の宿泊を伴う宿泊観光客の割合は、2.5%（157人）だった。そのうち国外が出発地の観光客は7人だった。

国内の出発地の地方別内訳は（図14）、都道府県別内訳は（図15）のとおりである。

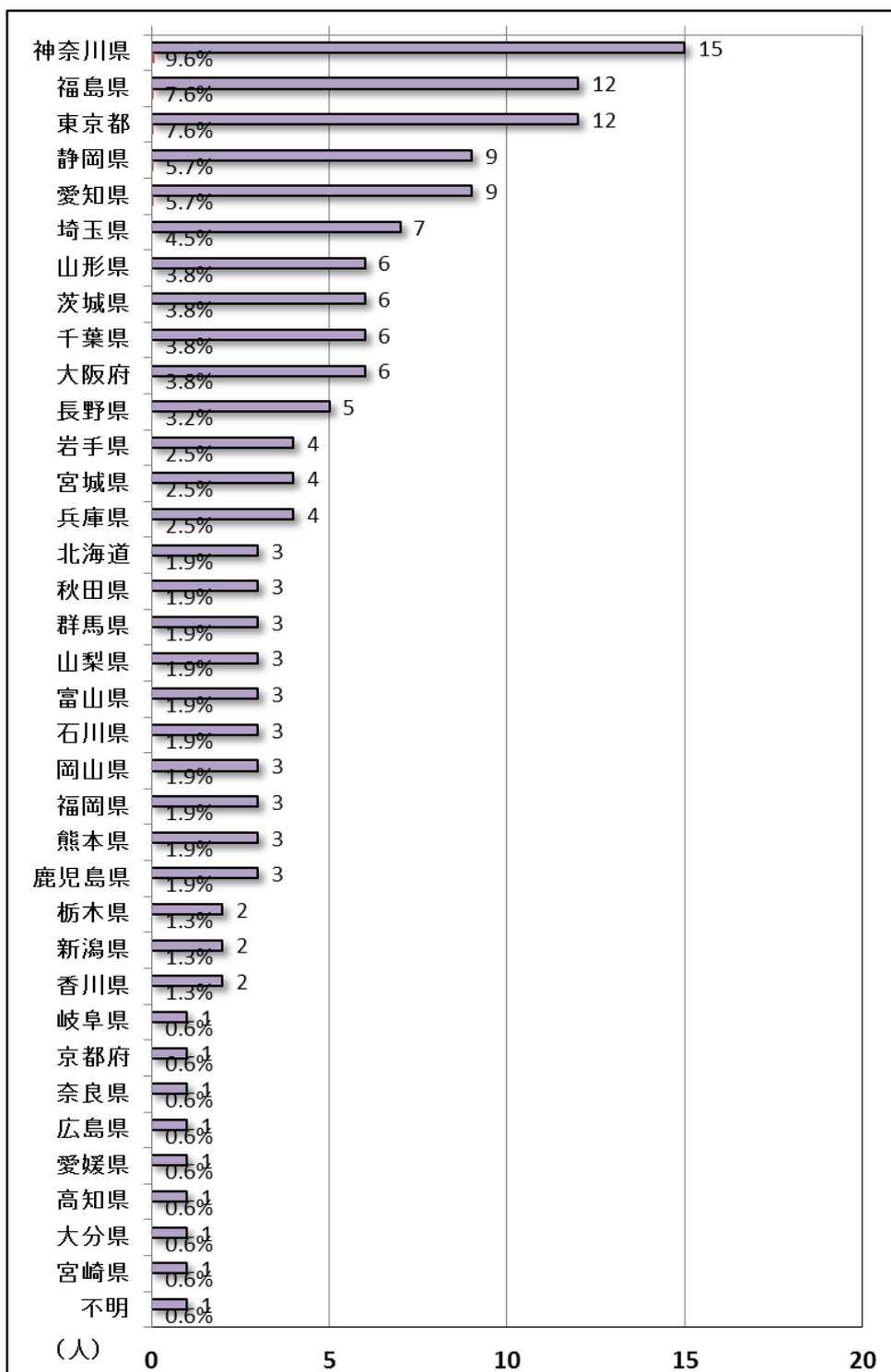
都道府県別では、神奈川県が最も多く（15人、9.6%）、続いて福島県と東京都（12人、7.6%）、静岡県（9人、5.7%）という結果であった。

国外の出発地は、台湾3人、タイ、ロシア、オーストラリア、ブラジルが各1人だった。

（図14） 宿泊観光客の地方別出発



(図 15) 宿泊観光客の都道府県別出発地

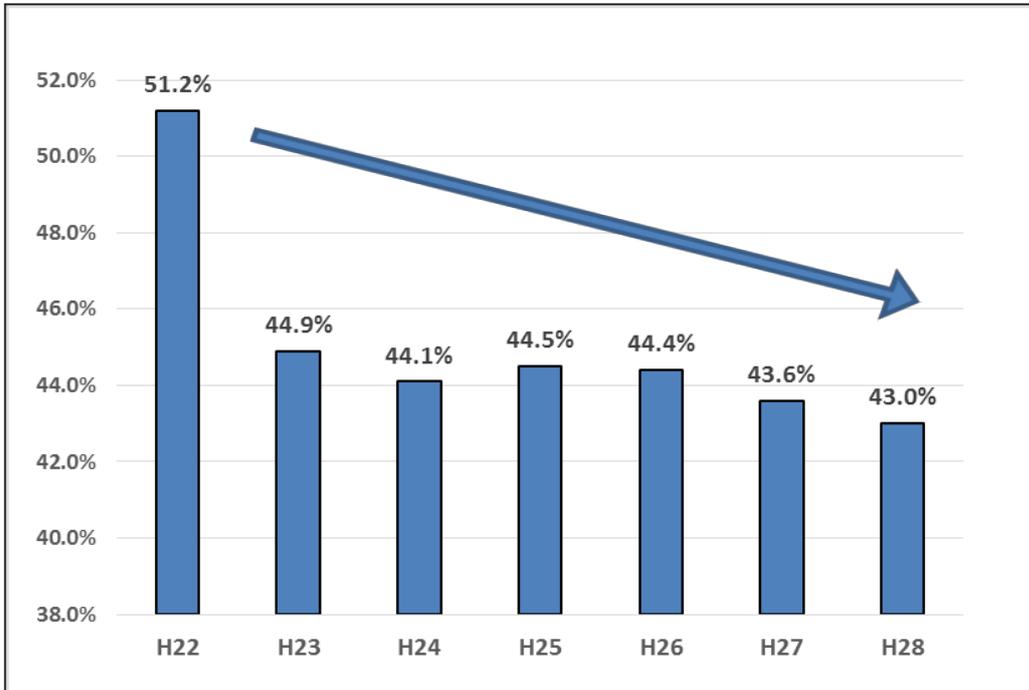


2-3-8 観光時間

川越は日帰り観光地となっていることから、観光時間が 3 時間程度から半日の観光客が大半を占める結果となった。(図 18)

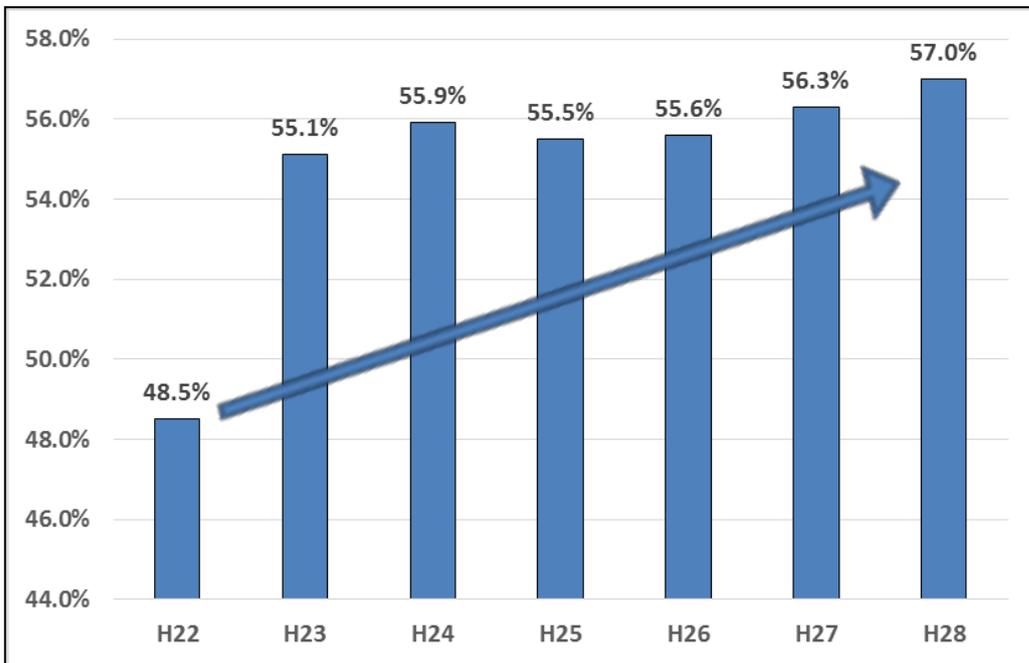
平成 22 年度以降の観光アンケート調査と比較すると、滞在時間について、1~3 時間程度の観光客率は減少傾向にあり、半日以上観光客率は増加傾向にある結果となった。(図 16 及び図 17 参照) これは、「川越氷川神社縁むすび風鈴」等により夜の観光客が増加したことや、観光施設の新設(旧山崎家別邸)等により、回遊性が向上し、滞在時間が延長したこと等につながったと推測される。

(図1 6) 観光時間 1～3 時間程度の観光客の割合の推移



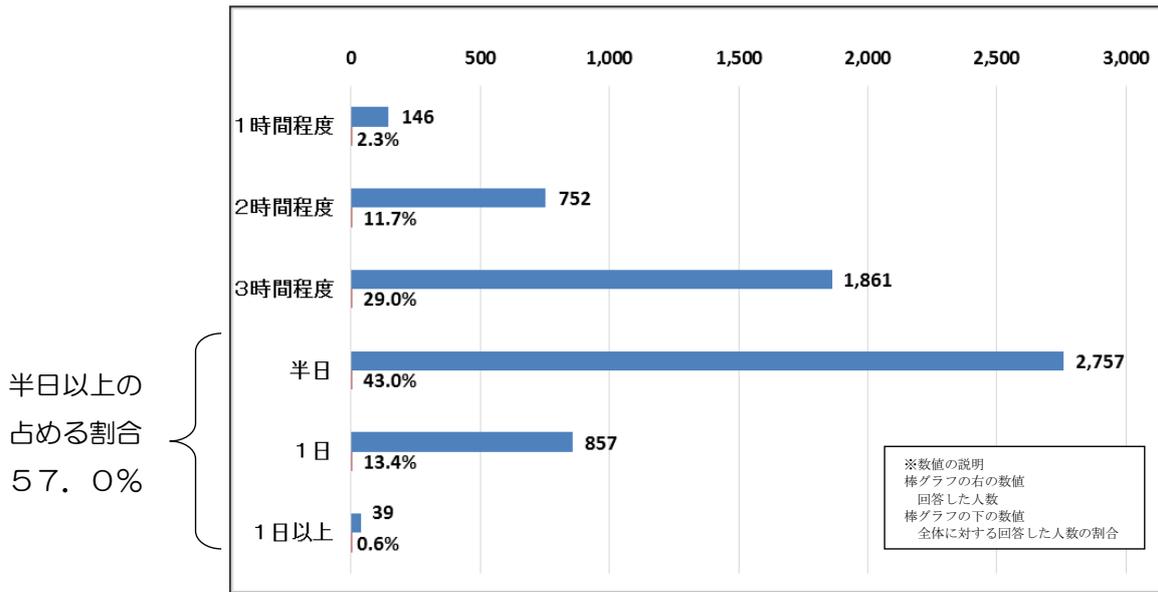
※グラフ内数値の説明
棒グラフの上の数値：全体に対する回答人数の割合

(図1 7) 観光時間半日以上の観光客の割合の推移



※グラフ内数値の説明
棒グラフの上の数値：全体に対する回答人数の割合

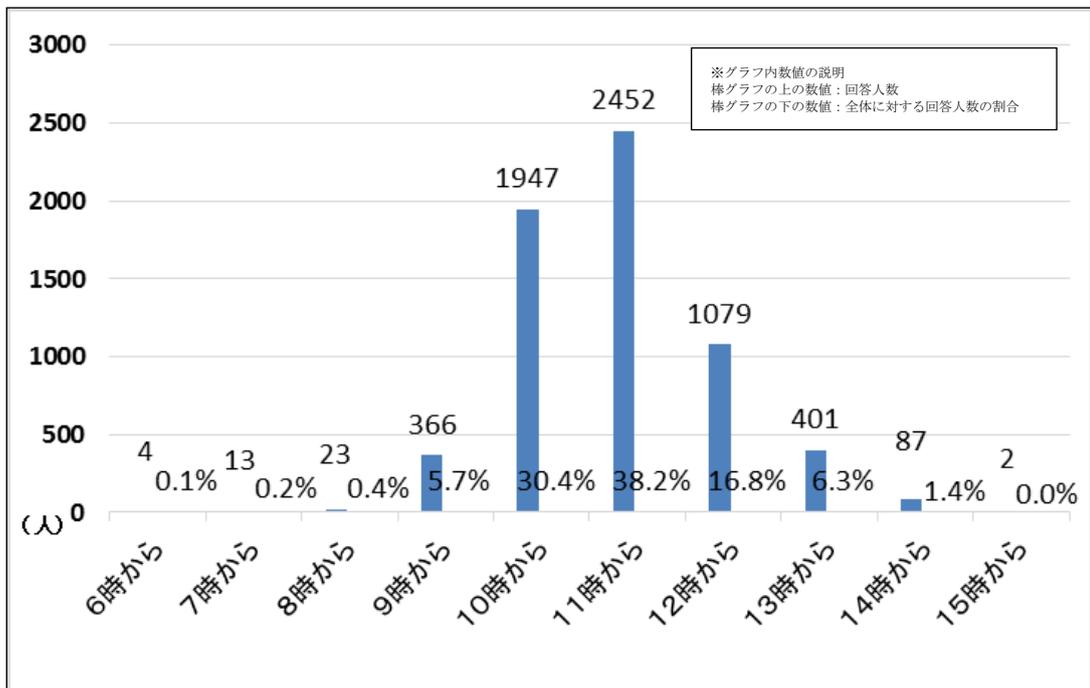
(図 1 8) 観光時間



2-3-9 訪れた時刻、帰る時刻

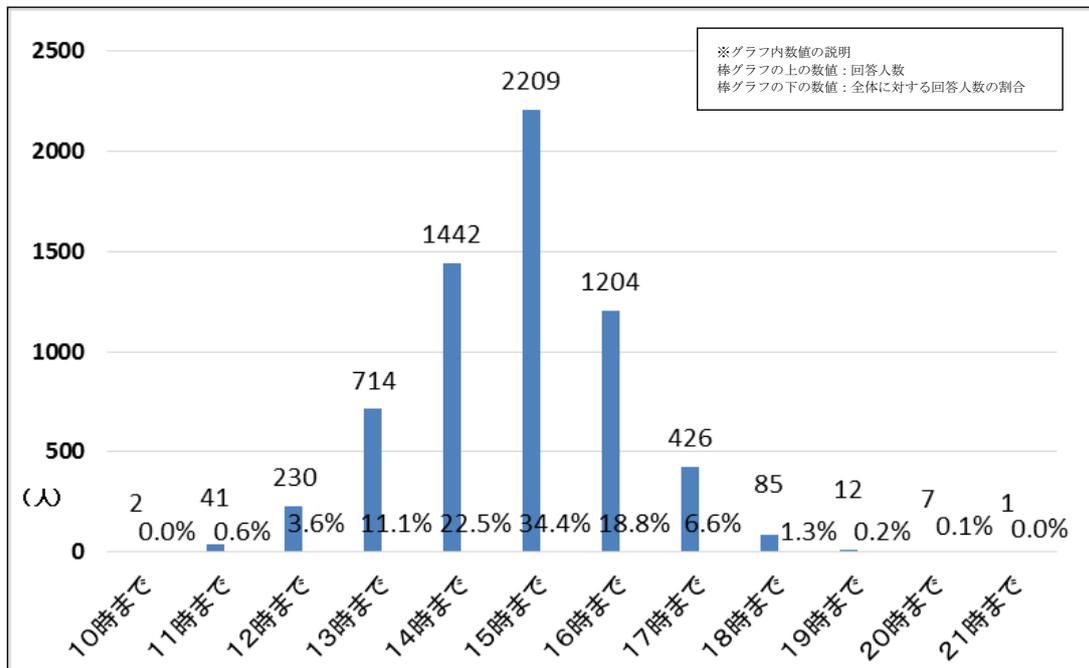
訪れた時刻で最も多かったのは11時で2,452人(38.2%)、その次に多かったのは、10時の1,947人(30.4%)だった。続いて、12時の1,079人(16.8%)となっており、前年度に引き続き約85%以上の観光客が10時~12時に訪れていた。(図19)

(図 1 9) 訪れた時刻



帰る時刻で最も多かったのは、15時の2,209人（34.4%）であった。その次に多かったのは、14時の1,442人（22.5%）、続いて16時の1,204人（18.8%）であった。（図20）

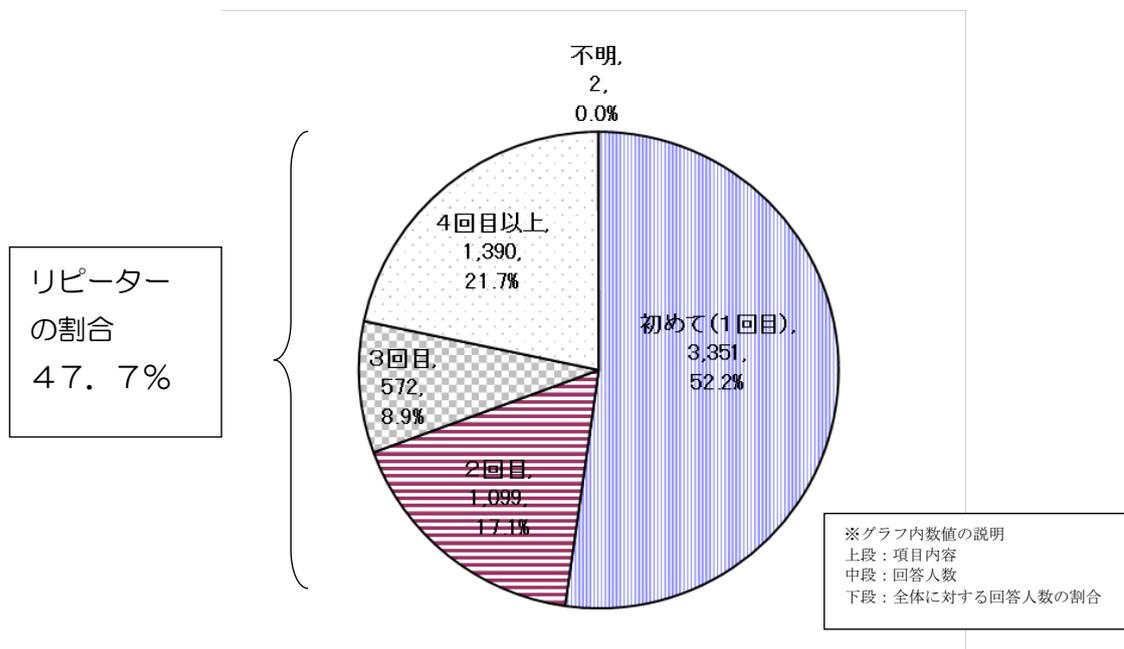
（図20） 帰る時刻



2-3-10 来訪回数

川越を「初めて」訪れた観光客は52.2%で、前年度より1.6ポイント減少した。平成23年度以降「初めて」の割合は増加し続けていたが、微減する結果となった。2回以上訪れている「リピーター」は47.7%となり、平成27年度より1.4ポイント増加した。（図21）リピーターの中でも4回以上訪れているリピーターが最も多かった。（21.7%）

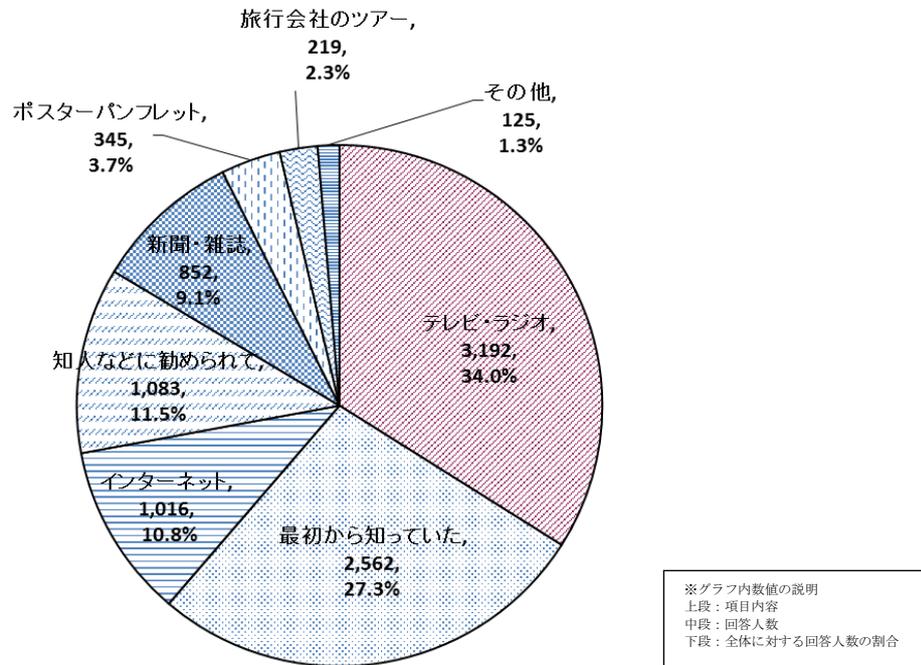
（図21） 来訪回数



2-3-1-1 認知方法

川越を知った方法は、「テレビ・ラジオ」が 34.0%と最も多く、昨年度と同様であった。「最初から知っていた（地元の人を含む）」は、27.3%で、続いて「知人などに勧められて」は 11.5%であった。（図 22）

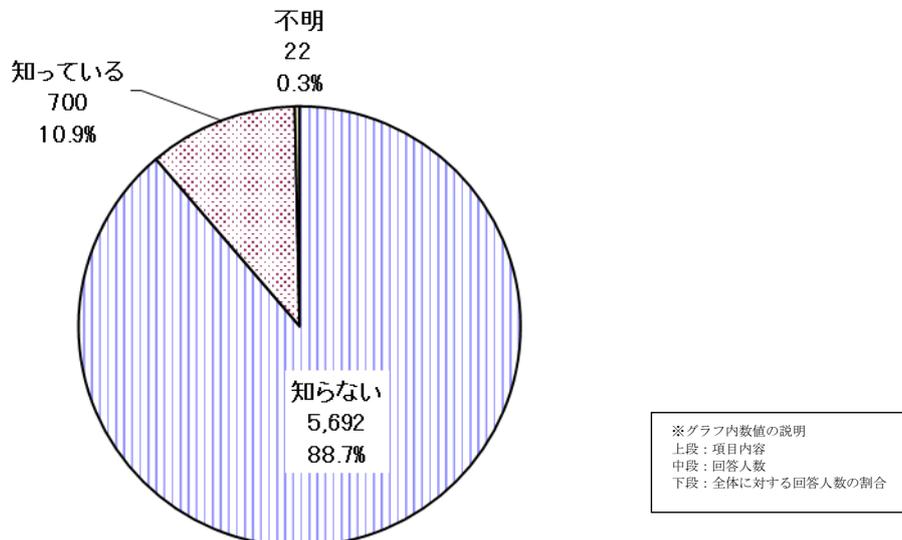
（図 22） 認知方法



また、川越の認知方法とあわせて、川越市マスコットキャラクター「ときも」（川越市のマスコットキャラクターで、平成 22 年 3 月に誕生した。時の鐘とサツマイモをモチーフにしたキャラクター。表紙参照。）の認知度についても調査を行った。

「ときも」を知っていると答えた人は全体の 10.9%で、毎年おおよそ 10%前後となっている。（図 23）

（図 23） 「ときも」認知度



2-3-12 立ち寄り観光地

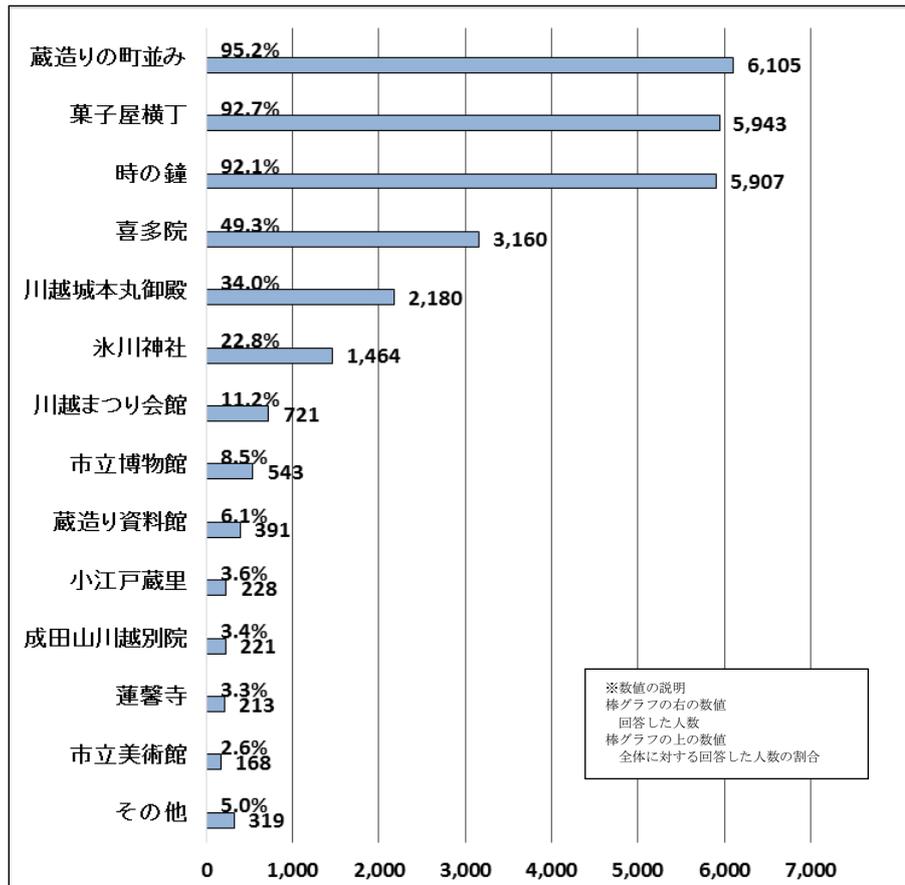
立ち寄り観光地について調査を行ったところ、蔵造りの町並み、時の鐘、菓子屋横丁は前年度に引き続き9割以上の観光客が訪れていた。（蔵造りの町並み95.2%、菓子屋横丁92.7%、時の鐘92.1%）（図24）その次に多かったのは喜多院で49.3%の観光客が訪れていた。その次は川越城本丸御殿（34.0%）だった。上位5スポットが前年度と同順位となった。また、氷川神社が22.8%となっており、平成23年度以降増加し続けている。（平成23年度6.7%→平成24年度8.4%→平成25年度9.5%→平成26年度14.3%→平成27年度19.0%）平成26年から開催されている、「川越氷川神社縁むすび風鈴」も、今年で3年目の実施となり定着しつつある。この時期は毎年多くの若者が訪れており、リピーターもいることから、今後も氷川神社を訪れる人の割合が高まることが予測される。

平成28年度に実施した「氷川神社縁むすび風鈴アンケート調査」によると、氷川神社以外の訪問先として、蔵造りの町並みを訪問した観光客の割合は、40.3%、菓子屋横丁は24.7%、時の鐘は15.6%となっていた。一人あたりの訪問数は1.86箇所という結果であり、氷川神社のみを目的とする観光客が多いことが推測される。（参考2）

平成27年度の全体のアンケート調査の結果は、主要な観光スポットである蔵造りの町並み、時の鐘、菓子屋横丁、喜多院を訪れた人の割合は、前年比で4スポット全て減少したが、平成28年は、前年比で時の鐘および喜多院の2スポットの減少にとどまる結果となった。このことから、前年度と比較して、氷川神社からまちなかへ流れる観光客が増加したことが考えられる。

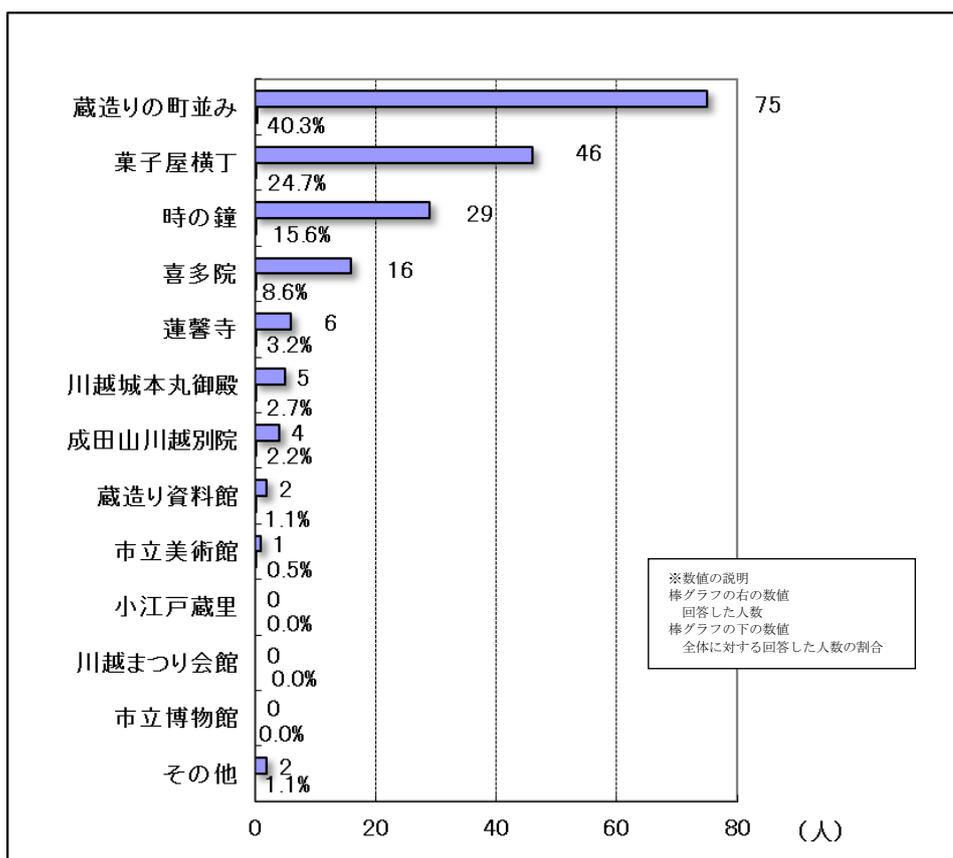
また、平成28年は観光客一人につき、平均4.3箇所の観光地を訪れており、昨年度と同様の結果であった。

(図 2 4) 立ち寄り観光地



※回答者 1 人につき、複数回答あり
割合 (%) は、それぞれの項目を回答した人数を、回答者総数 (6,414 人) で割ったもの

(参考) 平成 28 年度氷川神社縁結び風鈴アンケート調査における立ち寄り観光地

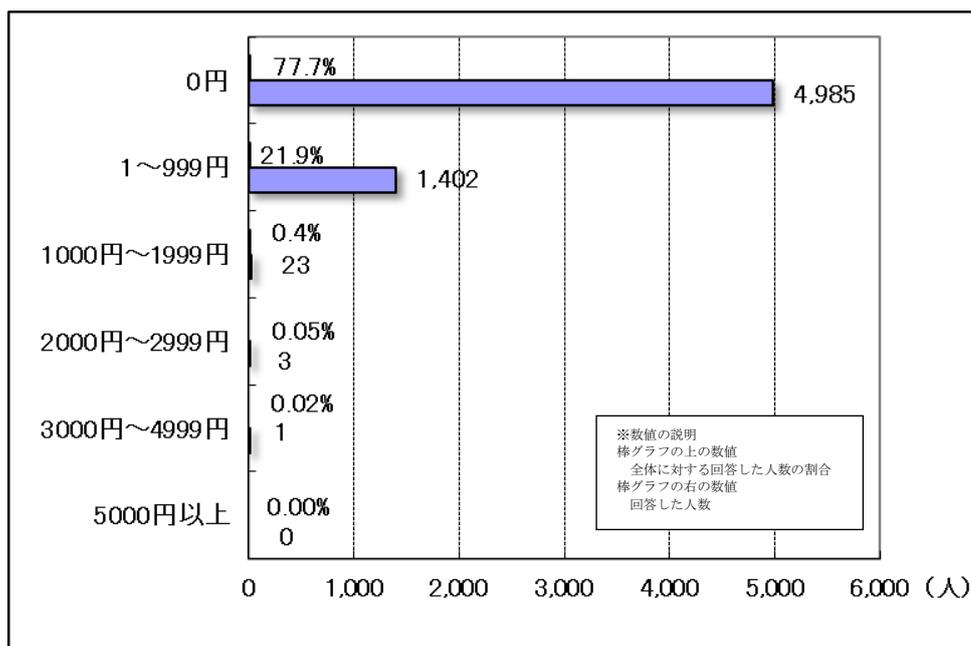


2-3-13 交通費

観光客の市内における交通費支出は、「支出なし」が77.7%と大半を占める結果となった。「支出する」割合は22.4%であり、平成27年度の22.7%から0.3%減少した。また、支出した方のほとんどは1,000円未満の支出だった。なお、一人あたりの平均交通費は372円であり、平成27年度の384円よりも12円減少した。(図25)

※合計が100%ではないが、これは小数点第2位を四捨五入しているため。

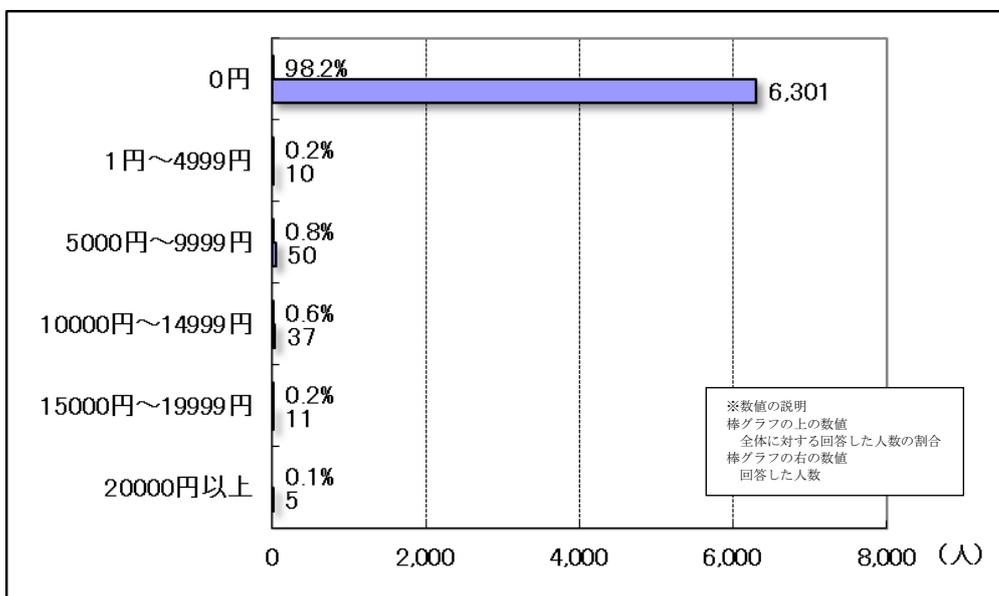
(図25) 交通費



2-3-14 宿泊費

宿泊費を支出しない観光客の割合は全体の98.2%で、昨年度と同様であった。また、宿泊費を支出する観光客一人あたりの平均宿泊費は9,585円で、平成27年度の10,061円よりも476円減少した。(図26)

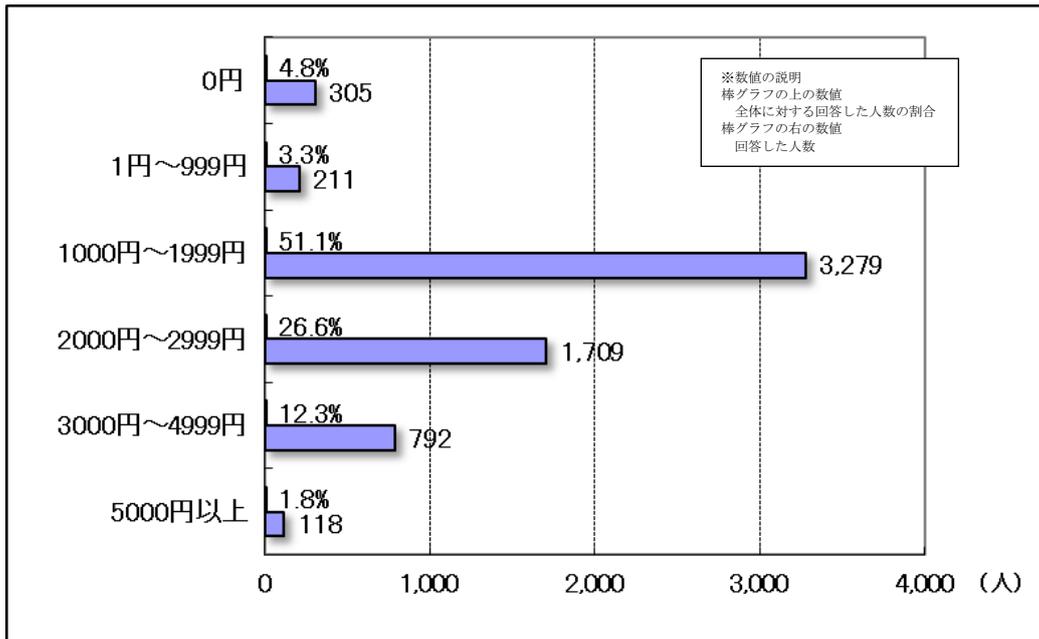
(図26) 宿泊費



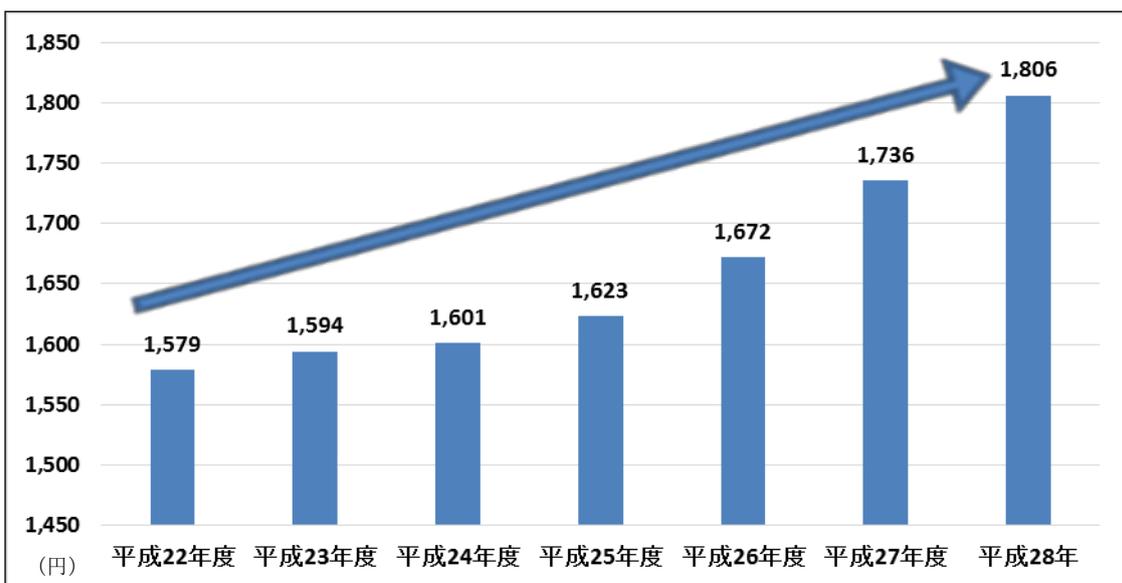
2-3-15 飲食費

市内における飲食費は「支出なし」が4.8%であり、前年より減少した（平成27年度5.9%）。飲食費の支出は1,000円台が最も多く、半数以上を占める結果となった。一人あたりの平均飲食費は1,806円で、平成27年度の1,736円より70円増加しており、6年連続で増加する結果となった。（平成22年度1,579円→平成23年度1,594円→平成24年度1,601円→平成25年度1,623円→平成26年度1,672円→平成27年度1,736円）（図27および図28）

（図27） 飲食費



（図28） 平均飲食費推移

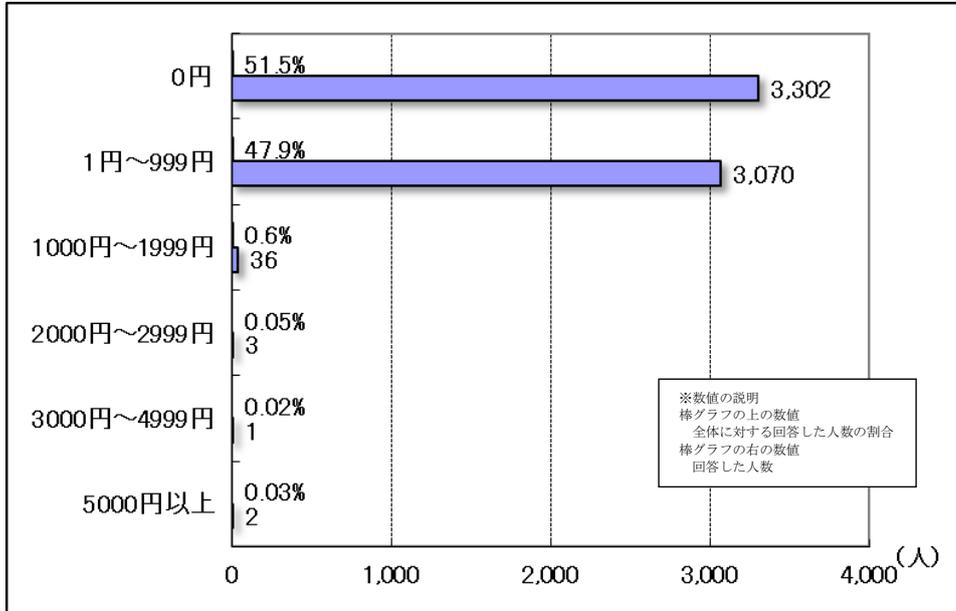


※数値の説明
棒グラフの上の数値
平均飲食費の金額

2-3-16 入館料・入場料

市内における入館料・入場料は「支出なし」が51.5%であり、平成27年度の44.7%と比較して、6.8ポイント増加した。入館料・入場料の支出は1,000円未満がほとんどを占めていた。また、一人あたりの平均入館料・入場料は405円で、前年度の410円よりも5円減少した。(図29)

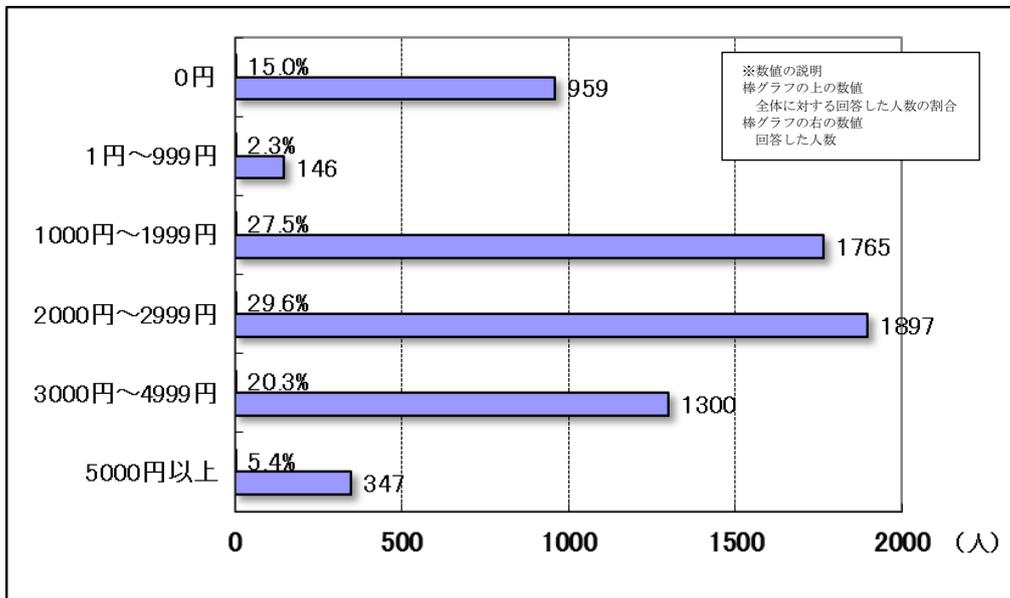
(図29) 入館料・入場料



2-3-17 お土産品購入費

市内におけるお土産品購入費は、最も多かったのが2,000円台、次いで1,000円台、第3位は3,000円代という結果となった。(図30) 1人あたりの平均購入額は2,206円となり、昨年に引き続き減少する結果となった。お土産品購入費の平均消費額は近年減少傾向にあるが、これは、一人あたりの平均消費額が高い中高年層の割合が近年減少していることが要因のひとつと考えられる。「氷川神社縁むすび風鈴」等の影響より、若者観光客が増加し、若年層の割合が高まったと推測される。(12ページ、図9及び30ページ、表8)。

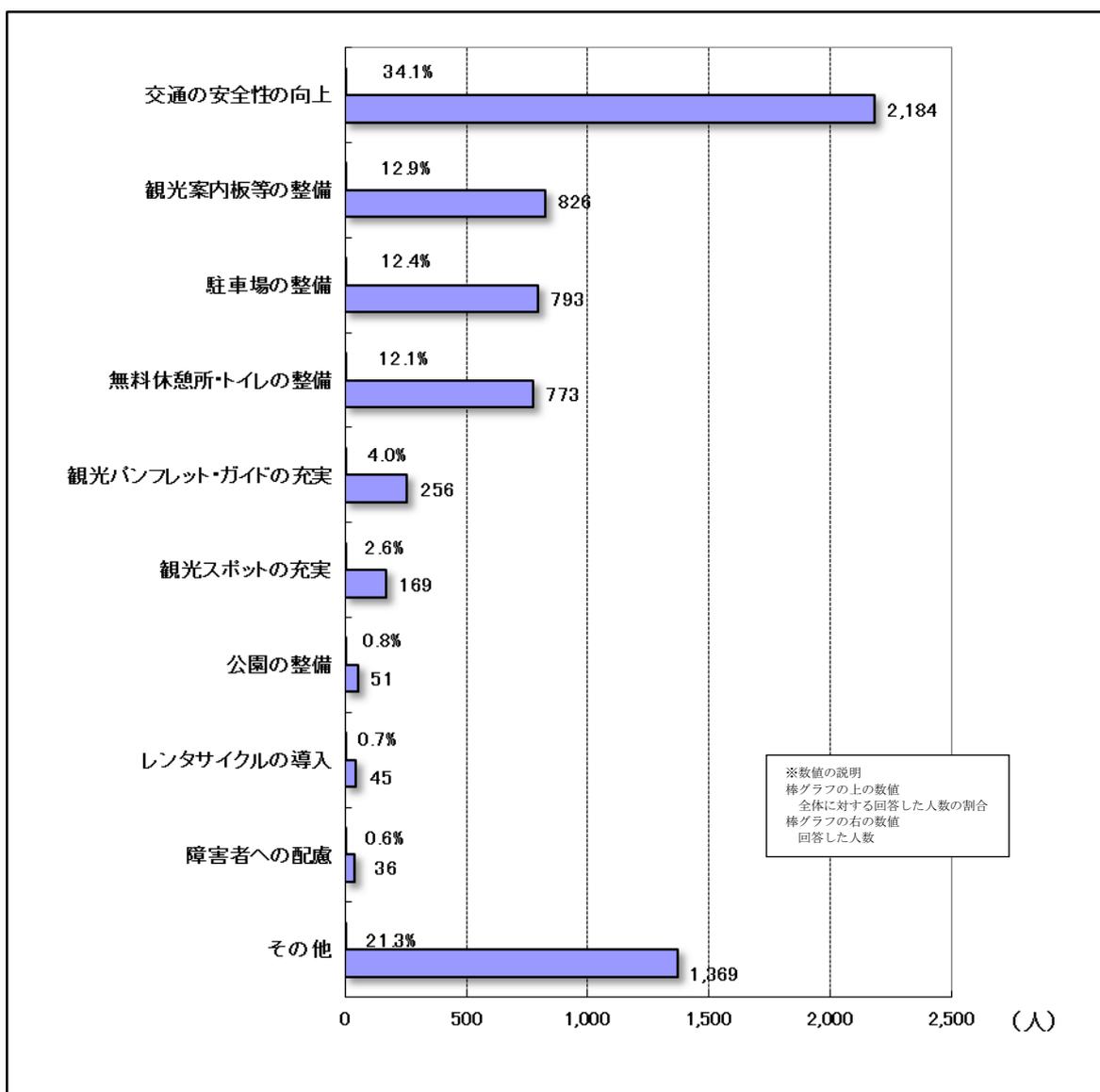
(図30) お土産品購入費



2-3-18 要望

「交通の安全性の向上」(34.1%)が要望として最も多いが、年々減少傾向にある。(平成25年度41.5%、平成26年度39.5%、平成27年度36.4%)また、2番目に多かった要望は前年と同様「観光案内板等の整備」(12.9%)であった。(図31)これは、国外からの観光客の割合が増加していることから、より分かりやすい多言語表記等の案内板が求められていると推測される。(外国人観光客は観光案内板の整備を回答する割合が最も高かった)

(図31) 要望



※回答者1人につき、複数回答あり。(%)は回答者総数(6,414人)に対する割合である。

2-3-19 意見・感想（自由回答）

川越に対する具体的な意見・感想については、主に下記のような意見があった。意見の中で最も多かったのは、歩行者天国の実施を求める声であった。外国人観光客からは案内板の多言語表記を分かりやすくしてほしいとの意見があった。また、時の鐘が耐震補強工事中であることを知らない観光客の方が非常に多く、インターネット等で周知徹底を求める意見が多くあった。（表4）また、「着物」や「縁結び」というフレーズも昨年度より増加した。

（表4） 川越に対する主な意見・感想

- ・海外からツアーできた。
- ・うなぎを食べにきた。
- ・芋菓子を食べ歩きをした。
- ・時の鐘が工事中で残念だった。
- ・時の鐘が工事中であることをもっと周知すべき。
- ・テレビで放映されていた食事処を目当てにきた。
- ・雑誌に掲載されていたお店を目当てにきた。
- ・日本の百名城の本丸御殿を見に来た。
- ・無料駐車場があって良かった。
- ・駐輪場を増やしてほしい。
- ・クレアモールに蔵造りの町並みまでの案内板をつくってほしい。
- ・案内板の文字を大きくしてほしい。お年寄りでも読めるように。
- ・案内板にあと〇〇mの表示が欲しい
- ・外国語の表記が小さい。
- ・ボランティアガイドがいればうれしい。
- ・着物を着て川越散策を楽しむことができた。
- ・トイレの掃除をこまめにしてほしい。
- ・トイレの案内を充実させてほしい。
- ・無料休憩所がとてもよかった。
- ・菓子屋横丁の復興イベントをしてほしい。
- ・菓子屋横丁がきれいに整備されていてよかった。
- ・巡回バスの本数をもっと増やしてほしい。
- ・バス停の場所が分かりづらい。
- ・外国人の態度がよくない。
- ・縁結び神社めぐりをした。
- ・氷川神社の風鈴を見に来た。
- ・レンタサイクルのポートを増設してほしい。
- ・レンタサイクルの利用方法が難しかった。
- ・点字の情報が少ない。
- ・歩行者天国にしてほしい。

3. 観光消費額

観光する際に一般的に消費する「交通費」、「宿泊費」、「飲食費」、「入館料・入場料」、「お土産品購入費」の5項目それぞれの平均消費額を調査し、これを基に、観光客一人あたりの平均消費額や川越にもたらされる全体の消費額、さらには、平成27年度と比較してどの程度の変化が見られたかを分析した。

平成28年の入込観光客数は704万人だったが、家族単位で訪れる時などは全員が消費活動を行うわけではないので、平成17年からの調査同様に、今回の調査結果からも家族単位で川越を訪れている観光客が多かったため（13ページ、図10参照）、実際に消費活動を行う人数を入込観光客数704万人の約40%の282万人と仮定し（平成27年度は664万5千人の約40%である266万人を用いた）、この数値から消費活動率などを踏まえて、川越にどの程度の消費がもたらされたかを試算した。

（表5） 平成28年の消費項目別の観光客平均消費額

項目	消費活動率	平均消費額	消費活動人数(人)	消費総額
交通費	22.3%	¥372	628,860	¥233,935,920
宿泊費	1.8%	¥9,585	50,760	¥486,534,600
飲食費	95.2%	¥1,806	2,684,640	¥4,848,459,840
入館料・入場料	48.5%	¥405	1,367,700	¥553,918,500
お土産品購入費	85.0%	¥2,206	2,397,000	¥5,287,782,000
合 計				¥11,410,630,860

※①消費活動率…アンケート回答者総数（6,414人）に対する、各項目で「支出あり」と回答した観光客の割合。

※②平均消費額…各項目において、観光客1人当たりが消費する平均金額。

※③消費活動人数…各々の項目で消費活動を行う人数。消費活動を行う対象となる観光客数282万人に各々の消費活動率を乗じたもの。

※④消費総額…各々の項目で消費される総額。平均消費額に消費活動人数を乗じたもの。

消費総額で最も高かったのは、お土産品購入費の約52億8780万円で、最も低かったのは交通費の約2億3390万円だった。また、平均消費額で見ると、最も高かったのは、宿泊費の9,585円で、最も低かったのは、交通費の372円だった。

また、各々の消費総額を合計し、川越にもたらされる消費額全体を試算したところ、約114億1000万円となった。（表5）平成27年度の結果（約108億4000万円）と比較すると、約5.3%の増加となった。

消費総額を各項目別で見ると、前年度と比較して入館料・入場料以外は増加する結果となった。交通費は約0.9%、宿泊費は約6.9%、飲食費は約11.6%、お土産品購入費は約1.6%増加した。入館料・入場料は約8.2%減少した。（表6）。

飲食費の消費総額および消費活動率は近年増加傾向にあり、どちらも過去 5 年で最も高い結果となっている。このことから、グルメを目的とする観光客が増加しているものと推測される。

一方、入館料・入場料の消費活動率は、過去 5 年で最も低かった昨年度を下回った。平成 28 年の市立博物館および市立美術館の入館者数も前年比で減少していることから、観光施設を目的として訪れる観光客よりも、町歩きを目的とする観光客が増加していると考えられる。

(表 6) 平成 27 年度の消費項目別の観光客平均消費額

項目	消費活動率	平均消費額	消費活動人数(人)	消費総額
交通費	22.7%	¥384	603,820	¥231,866,880
宿泊費	1.7%	¥10,061	45,220	¥454,958,420
飲食費	94.1%	¥1,736	2,503,060	¥4,345,312,160
入館料・入場料	55.3%	¥410	1,470,980	¥603,101,800
お土産購入費	88.1%	¥2,221	2,343,460	¥5,204,824,660
合 計				¥10,840,063,920

観光客一人あたりの平均消費額については、「日帰り観光客」、「宿泊観光客」、「観光客全体」に分けて算出した。(表 7)

また、宿泊観光客については、「宿泊費を支出する観光客」(ホテルや旅館に宿泊と推定)と「宿泊費を支出しない観光客」(家族や友人の家などに宿泊と推定)がいたため、両者を区別して算出した。

(表 7) 滞在形態別の観光客平均消費額

	人数(人)	平均消費額
宿泊観光客(宿泊費支出あり)	103	¥16,701
宿泊観光客(宿泊費支出なし)	54	¥5,172
日帰り観光客	6,255	¥3,828
不明	2	¥1,000
全体	6,414	¥4,045

「宿泊費支出あり」の宿泊観光客の平均消費額は 16,701 円、「宿泊費支出なし」の宿泊観光客は 5,172 円、日帰り観光客は 3,828 円だった。

また、観光客全体では 4,045 円だった。4,073 円だった平成 27 年度と比較すると、28 円減少した。

次に、世代別（10～20 歳代、30～40 歳代、50 歳代以上、不明除く）で平均消費額を調べたところ、10～20 歳代の平均消費額は 3,132 円、30～40 歳代の平均消費額は 4,020 円、50 歳代以上の平均消費額は 4,328 円と、年代が上がるにつれ、平均消費額が増える結果となった。（表 8）

消費総額については、平成 27 年度に一時的に減少したが、平成 22 年度以降、年々増加傾向にあり、平成 22 年度以降最も高い数字となった。（図 32）

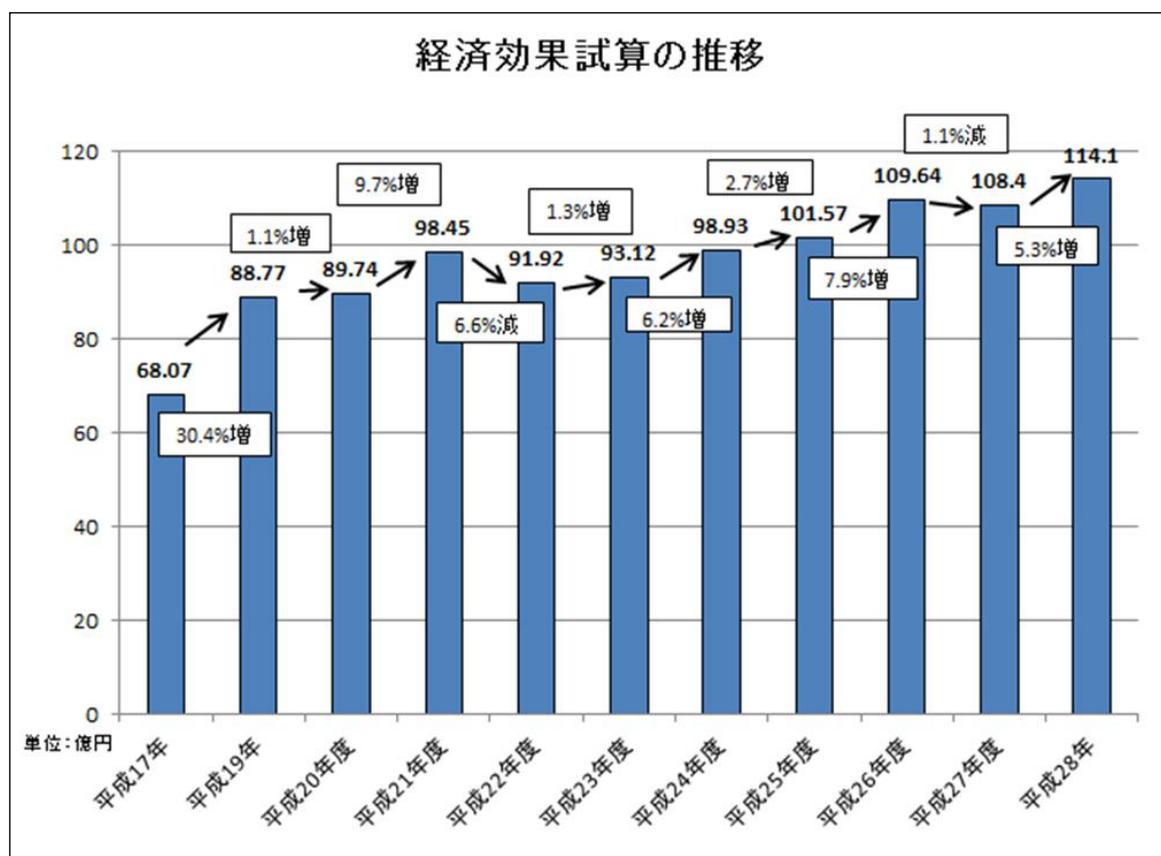
このことから、個々の観光客の消費額は減少しているが、消費活動をする観光客が増加していることが推測される。

（表 8） 世代別の観光客平均消費額

項 目	人数 (人)	平均消費額
10～20 歳代	1,006	¥3,132
30～40 歳代	1,965	¥4,020
50 歳代以上	3,437	¥4,328

※合計人数が 6,408 人となるが、これは年齢未記入者が 6 名いるため。

（図 3 2） 経済効果試算の推移



※平成 18 年については、観光アンケート調査を行っていない。

※数値の説明
 棒グラフ上の数値
 消費総額の合計
 棒内数値
 年度毎の増減割合

川越市観光アンケート調査報告書 平成28年

平成29年3月

編集・発行 川越市産業観光部観光課

〒350-8601 埼玉県川越市元町 1-3-1

TEL 049-224-5940 (直通) 049-224-8811 (代表)

FAX 049-224-8712